

地域ケア会議

鹿児島市地域包括支援センター桜島

作成担当者： 鮫島 さとみ

【計画】

開催日時	令和元年8月21日 14:00~15:30	開催場所	桜島地区保健センター会議室
参加者	介護支援専門員：4人、病院相談員：1人、保健師：1人、地域包括支援センター職員 総数 6 人		
内容	テーマ	事例検討および社会資源	
	目的	事例検討会を通じ、援助者としての力量の向上、居宅介護支援事業所と包括のネットワーク構築。居宅介護支援事業所との事例検討会および困難事例の共有を行い、円滑な連携を目指す。桜島圏域における社会資源の発掘・支援体制のあり方も含め、意見交換を行う。	
	概要	<p><事例概要> 精神障害をわずらう家族への支援の視点が必要な事例 79歳男性で要介護3・アルツハイマー型認知症および器質性精神障害あり、午前中みの通所介護利用中。妻は長期入院中で退院は不可能。同居の長男は統合失調症があり、精神状態や体調が不安定であり、介護疲れで相談の居宅介護支援事業所に電話相談が頻繁にあり、居宅介護支援事業所等が共依存状態にある長男の対応に疲弊している。一方で今後の44歳の精神障害の長男の相談窓口としての受け皿が必要との思いがある。</p>	

【結果】

開催日時	令和元年8月21日 14:00~15:30	開催場所	桜島地区保健センター会議室
参加者	介護支援専門員：4人、病院相談員：1人、保健師：1人、地域包括支援センター職員 総数 6 人		
内容	<p><事例概要> 精神障害をわずらう家族への支援の視点が必要な事例 79歳男性で要介護3・アルツハイマー型認知症および器質性精神障害あり、午前中みの通所介護利用中。妻は長期入院中で退院は不可能。同居の長男は統合失調症があり、精神状態や体調が不安定であり、介護疲れで相談の居宅介護支援事業所に電話相談が頻繁にあり、居宅介護支援事業所等が共依存状態にある長男に対応している。一方で今後の44歳の精神障害の長男の相談窓口としての受け皿が必要との思いがある。</p> <p><論点の明確化> ●要介護3の本人の支援や本人の入院時等に長男を含めた支援のあり方 現状は居宅ケアマネを含め、他のケアマネやデイ管理者・他の職員等複数人数で関わり、長男の精神状態が不安定なときは電話対応や訪問対話等でかなり綿密に連携している。 同居の長男にとって、父親の介護は生きがいであり、同時にストレスである。父親の介護に一生懸命の自分に注目し、介護の苦勞をわかってもらいたい認められたい思いが日に7~8回の相談となっている。</p> <p>【意見交換】 <桜島圏域と周辺精神障害関連の支援の社会資源> 精神疾患の長男の居場所づくりや社会とのつながり方、今後の相談相手について、桜島島内、垂水市の状況・保健センター・保険対策係り相談の流れ、また長男に支援が必要とされる状態とはどのような時かについて社会資源を含めて意見交換を行う。</p>		
今後の課題等	○今後考えられることとして、本人が長期の入院時等で不在になった場合、長男の相談相手は誰になるのか。現状ケアマネ等が家族支援しているが、行政の保健師ひとりでは重荷になるので、現時点から民生委員や地域住民等と徐々にかかわっていく必要がある。これまで就労したことがない者ではあるが、就労支援事業所や精神の訪問看護の他あらゆる利用できる資源を活用していきたい。 この事例は8050問題の一例として、社会資源の少ない桜島圏域の多職種協働の参考事例となった。 事例のように、孤立する立場の精神疾患の若年者にどう対処していくか、または地域に受け皿としての社会資源をどう構築していくかが課題である。		